

2016年9月18日

## 福音書からのメッセージ

主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた。この世の子らは、自分の仲間に対して、光の子らよりも賢くふるまっている。(ルカによる福音書 16章8節)

イエス様はたとえを語られます。ある金持ちに一人の管理人がいました。この管理人は、お金持ちの財産の管理を任されていました。ところがその管理人が任されていた財産を無駄遣いしていると、告げ口をする人がいたようです。

普通ですと、無駄遣いした分を弁済するか、あるいはひたすら謝るか、そのようなことを考えるでしょう。しかしこの管理人は、まったく違う行動をとります。彼は、罪に罪を重ねるようなことをおこなうのです。彼は自分が首になるだろうと思いました。だから管理人であるうちに、金持ちに借りのある人々に恩を売ろうと考えました。彼らの借金を減額していったのです。この管理人は、主人のお金を無駄遣いしたばかりではなく、さらに主人の財産を勝手に減らしたのです。

この管理人にはまったく痛みはありません。自分は何一つ失っていません。減っていくのは預かっていた主人の財産だけです。当時のイスラエルの常識に照らし合わせても、わたしたちの感覚でも、この管理人のおこないは許しがたいことです。たとえを聞いていた人たちは、きっと主人がこの管理人を許さない姿を想像したでしょう。しかしイエス様は、彼らの予想を裏切る結末を伝えます。

主人は、この不正な管理人の抜け目のないやり方をほめた、そうイエス様は言うのですね。不正な管理人の、抜け目のないやり方をほめたわけです。もう間もなく自分は首になるという時に、管理人は急いで行動しました。その「ずるがしこい」行動を、主



人はほめたのです。この管理人は、不正にまみれた富に対して、忠実に、賢く行動しました。ではあなたたちは、与えられた物に対してどうなのだと問われるのです。

わたしたちは、たくさんの賜物を神さまからいただいています。でもその賜物を、わたしたちは自分のためだけに使っていることはないでしょうか。金持ちの主人が管理人に財産を管理させたように、わたしたちに神さまは賜物を与え、用いるようにと預けられています。しかしその賜物を、本当に賢く用いているのでしょうか。イエス様はわたしたちに言われます。不正な管理人が不正にまみれた富に忠実であったように、あなたがたは神さまから頂いたお恵みに忠実でありなさいと。

そしてイエス様は、本当の管理人の姿も示されます。わたしたちは神さまに対して、罪深い者です。いわば返しきれない借金を背負っているようなものです。そのわたしたちの元に、イエス様は来られました。イエス様は十字架につけられることで、神さまとわたしたちとの間の借金の証文を破り捨てられたのです。

あなたの罪を赦す。そのためにイエス様は来られました。罪を赦されたわたしたちが神さまと正しい関係になり、イエス様がわたしたちの友となるのです。神さまにとっては、大損かもしれない。しかしこれが、神さまのみ心なのです。

### 桃山基督教会

〒612-8039

京都市伏見区御香宮門前町 184

TEL/Fax 075-611-2790

メール momoyama.kyoto@nssk.org

<教会ホームページ>

<http://momoyama.hannari.com/>